

会議名	第9回 まちづくりの勉強会
日時	平成31年4月24日 午後7時30分～午後9時21分
内容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市民 12名 事務局 5名 計17名 (10代:0名 20代:1名 30代:4名 40代:8名 50代:3名 60代:1名 70代:0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(5分) 進行:事務局 ② グループ討議(75分) 前回に引き続き「ゆっくりとしたときが流れる」ということの議論を踏まえつつ、若者が住みたく なるようなまち、子育てしたくなるようなまちとは、また、若者はそれを受け入れられるのか、受 け入れたいと思っているのか、受け入れられるとしたらどのような工夫をすれば良いかというこ とをテーマに、各グループで討議 ③ グループ別発表、意見交換(27分) ④ おわりに(4分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】 ・若者が高山に住みたくなるまちには、<b>新しい価値観</b>が必要 ・暮らし:こだわりのある暮らし、高山(田舎)に居ても外とつながってられる暮らし ・仕事:企業誘致、都市と比べて魅力的な就職先、自営業・小企業への支援 ・文化:新たな文化の受け入れ、新しい芸術分野の誘致、アート活動、大学・専門学校の誘致 まちづくりで成功している世界の事例を研究する</p> <p>【グループ2】 ・前回に引き続き... 若者とは、20代前半、高校や大学を卒業して就職する子が高山に帰る、来ることを想定 ・若者が高山に来る4つの要素↓ ・<b>自分の居場所</b> ほどよい人づきあい、近すぎず遠すぎない、高山らしい人のつながり感 ・<b>若者向けの施設</b> 趣味に没頭できる場所、自分が作ったものを発表する場所、外へのつながり ・<b>つながる場所</b> フリーWi-Fiの充実、居酒屋マップ、観光マップをネットで発信 ・<b>自然</b> のどかな自然公園、誰もが憧れる自然公園(世界一美しい○○)、 アクティブな体験ができる場所(ジップライン、つり橋等) ・若者の間で盛り上がる新しいイベントが、30年後には高山祭を凌ぐくらいの目玉になると良い</p> <p>【グループ3】 ・ライフステージ:子育てがしたくなるようなまち(30代くらい?) ・子どもの視点 自然の中で、歴史や文化を感じながら<b>のびのび</b>育つ 安全な食、安心できる環境、防犯、防災がしっかりしている環境で<b>すこやか</b>に育つ <b>未来に向けて</b>、自立して生きる力をつけるための学習環境が整っている ・親の視点 孤立してしまいがちな時期に、子育てに対する悩み等を話せる同世代の<b>仲間</b>がいる <b>家族</b>が近くにおいて協力が得られ、たまには子どもを預けて夫婦で出掛けられる 職場や近所に託児所があり、<b>地域</b>で子どもたちの成長を守る 父母とも働く環境があり経済的に安定した生活ができる、子育てをする人たちを支える<b>社会</b></p>

- ・ ゆっくりとした時間の流れの中でのびのびと育った子どもが30歳になったとき、そのときの記憶が呼び起こされ、自分もそういう環境で子育てをしたいと思い、高山に帰ってきてくれるという循環が大切

[アンケートより抜粋]

- ・ 高山に無いものをねだるのではなく、無いものは無いとして割り切って、今ある高山のものをどう魅力的に見せていくか、見せ方を考えていくことが大切。
- ・ 「高山だからこそできる」という視点を加えていけると良い。

[まとめ・次回について]

- ・ 若者が住みたいまちが高山で実現できるのか、実現できるとしたらどんなふうにしたら良いか、を考える。
- ・ 第10回は、平成31年5月29日（水）19：30～21：30 市役所にて。
- ・ 次回は「ひだ！高校生会議」でのグループ発表について紹介する。